

## 平成28年度 第1回公立大学法人公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 平成28年5月18日(水) 10:00～11:15
- 場 所 大会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 高橋一委員、今井正和委員、小林楨太郎委員、小林朋道委員、富岡庄一委員、岡崎誠委員、吉永郁生委員、片木威委員、田中仁成委員、中島廣光委員  
[10名/13名]
- 欠席者 角紀代恵委員、木下法広委員、山本仁志委員
- オブザーバー参加 齊藤情報メディアセンター長、北崎国際交流センター長

### 【議事】

#### 1 新委員等の紹介

学長から新たに就任した委員等の紹介があった。

#### 2 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

#### 3 審議事項

##### (1) 公立大学法人公立鳥取環境大学教育研究審議会規程の一部改正について

学長から、教育研究審議会の学内委員に情報メディアセンター長及び国際交流センター長を追加するための改正である旨の説明があり、原案のとおり承認された。

##### (2) 平成29年度入試概要について

学長から、県内高等学校に設けていた推薦人数枠(同一校4人)の撤廃及び一般入試前期日程の会場の追加(首都圏:大宮)などの見直しを行いたい旨の説明があり、原案のとおり承認された。

##### <主な意見等>

・教職員の負担も大きいと思うが、福岡や名古屋など全国各地に試験会場を設ける必要があるのかどうか教えてほしい。

→ 経営学部は比較的県内や中国地方出身者が多いが、環境学部は全国各地から学生が来ていることもあり、全国に試験会場を設けている。会場を減らして、今までどおりに学生が確保できるかどうかといった懸念がある。

また、名古屋会場の受験者が多いため、首都圏で交通の便が良く東北地方からも受験しやすい大宮に会場を設けることとした。

・他大学と比べ、推薦入試の人数が多いと思う。もう少し減らしても良いと考える。

→ 推薦入試の募集定員のことも含め、中期計画の見直しに併せて、入試について見直す必要があると考えており、審議会委員の意見を伺いながら検討を進めていきたい。

・AO入試と推薦入試を合わせて約4割というのは必ずしも多いという訳ではない。推薦入試だけ見ると少し多いように思うが、早めに意欲の高い学生を確保するというのであれば理解できる。

・県内高校に係る高校毎の推薦上限の廃止には賛成である。地方における社会減が著しい中、C

OC+の取り組みなど公立大学への地域の期待は大きいと考えている。推薦入試における15名の地域枠を是非とも確保してほしい。

→ 県内からの受験者が少ないことなどもあり、必ずしも地域枠15名の学生を確保できていない年もある。

→ 県内からの受験者を増やすには県内での本学の評価を積み上げていく必要がある。順序として、まずは全国から力を持った学生を受け入れることにより、県外での評価を高め、県内の方にも気付いてもらうということになると考えている。

#### 4 報告事項

##### (1) 近況報告

学長及び事務局から、在籍者状況、平成27年度就職活動状況及び平成28年度入試実施状況など大学の近況について報告があった。

##### 5 学長選考会議委員の選任について

学長（理事長）の選考等に関わる委員の選任を行うため、学長及びオブザーバー参加者は退席し、今井副学長が議長を務め議事を進めた。

今井副学長から、学長選考会議の根拠法令や業務内容、前回の学長選考会議委員選任の手順等について説明があった。

前回と同じく投票により学内委員2名、学外委員1名を選出することとされ、今井委員、小林朋道委員、中島委員が学長選考会議委員に選任された。

#### 6 閉会